

講演 カテーテル大動脈弁治療

ご紹介ありがとうございます。それでは、早速始めたいと思います。

これは厚生労働省から出ております人口動態統計で死亡数を見たものです。皆さんご存知のように、一番多いのは癌です。少し前までは脳血管疾患が非常に多かったのですが、高血圧治療が進みまして死因としては減ってきています。最近のご高齢の方が増えて肺炎が3位になって心疾患が2位という状況になっております。

そういう心疾患ですけども、先ほど心疾患の中で死因を述べましたけど、どのような心疾患が死因になっているかを示したものがこの円グラフです。これは高血圧心疾患を除く心疾患ということで、この統計表を見ますと高血圧心疾患が約7,000人、それを除く19万人は心疾患と分類されているのですが、その中で急性心筋梗塞が19.8%で、その他の虚血性心疾患が17.7%、この2つを合わせると35%位ですけども、心不全だけは36.4%ということで、この分類では心不全が一番多い疾患となっています。

心不全は症候群という話ですけども、心不全は皆様ご存知のように、息苦しい、足が腫れる、そのような症状が心不全ですけども、これは兆候ですけども症候群というような考えがあります。

これはどういう事かと申しますと、そういう症状ですけども原疾患はいろいろなものがあるということです。今、心不全が一番多いというお話をしましたけども、その心不全の原疾患としましては、虚血性心疾患、いわゆる心筋梗塞や狭心症がらみ、あとは高血圧、弁膜症、心筋症、不整脈、いろいろな病気があります。

このような病気がありますから、当然、心不全に対する根本的な治療も変わってまいります。もちろん、先生方は利尿薬や強心薬などいろいろなものを入れるわけですけども、例えば、狭心症の場合は心臓の血管が狭いわけですから風船で広げるとか、高血圧の場合は血圧の治療をするとか、弁膜症は弁置換をするとか、不整脈はまた後で小川先生が話をされると思いますが、このようないろいろな治療法がありました。ですから、心不全の原疾患によって治療法が違うということをお頭にいただければと思います。

その心不全ですけども、先ほどは心不全の死因の原因を話しましたが、今度は心不全の原疾患でどういうものが多いかということですけども、やはり心不全の原因で一番多いのは高血圧です。これは2004年の日本のデータですけども、心不全の原因の3分の1強は高血圧です。その次が虚血性心臓病、心筋梗塞を起こした後とかです。それと弁膜症となっています。だいたい、大まかに言うと虚血性、高血圧性、弁膜症が3分の1ぐらいです。もちろん、心筋症という病気もありますけども、大学などになりますと心筋症など大きい病院ではこのような入院も多いのかもしれませんが、一般の我々も含んでですけども、外来と似ているとか、いわゆる市内病院で入院するのは、原疾患としてはこのような原疾患になっています。